

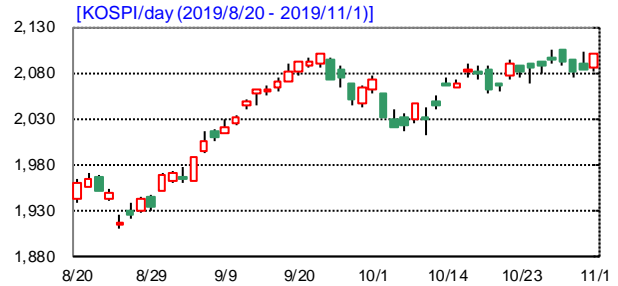


【韓国】 総合指数は0.6%高と4週続伸、米利下げや主要企業の業績を好感

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.6%高と4週続伸。米中通商協議への期待感や米連邦準備理事会（FRB）の利下げ決定による安心感、主要銘柄の好調な業績などが相場を支えた。週初の10月28日は前週末の米株高を受けて主要銘柄に買いが入り、終値は9月24日以来約1カ月ぶりの高値。週半ばには反動で目先の利益確定売りや持ち高調整が優勢だったほか、米中第1段階合意の先送り懸念や米連邦公開市場委員会（FOMC）発表の見極めも上値を重くした。週後半はFRBの利下げ決定に加え、ハイテク・製薬を中心とする主要銘柄の好業績の発表を受けて投資家心理が改善し、2100ポイントを回復した。今週も米中通商協議の合意を巡り、神経質な展開か。5日に10月末時点の外貨準備高、6日に経常収支がそれぞれ発表される予定。

▼指数チャート

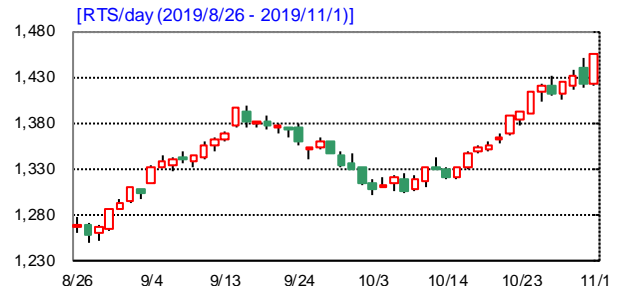


【ロシア】 RTS 指数は週間で2.4%高と4週続伸、今週も買い優勢の展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.4%高と4週続伸。米中の強い経済指標を受けて世界経済の減速懸念が後退し、週末に大きく上昇した。原油相場の下落や米中通商合意期待など好悪材料が入り混じったことで週明けから上下にもみ合いとなったが、1日は中国の10月製造業PMIが上振れたほか、米国の10月の雇用統計で非農業部門雇用者数が大きく増加し、世界経済の減速懸念が大きく後退した。RTS 指数は1日に前日比2.3%高の1455.44ドルで終了し、終値で2013年11月18日以来、約6年ぶりの高値を更新した。個別銘柄では天然ガスのガスプロム（6.9%高）、非鉄金属のMMCノリスクニッケル（5.7%高）、石油のロスネフチ（3.1%高）が指数の上昇に寄与した。今週は世界的景気減速懸念の後退を背景に買い優勢の展開か。

▼指数チャート



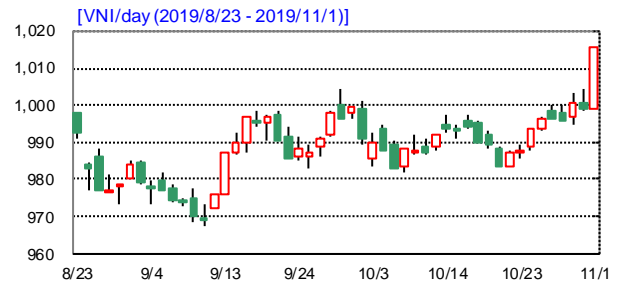
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.9%高と続伸、世界的な景況感改善で堅調持

続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.9%高と続伸。中国の製造拠点のベトナム移転期待が高まり、週末に大きく上昇した。週前半は米FOMCを前に金融株を中心に底堅く推移。利下げ決定の翌日は小幅に売られたものの、1日に中国が米国との長期的で包括的な貿易合意に対して疑問を呈したとの報道を受け、中国の製造拠点のベトナム移転期待が高まった。恩恵を受けやすい不動産株が上げを主導し、指数は1日に前日比1.7%高の1015.59ポイントで終了。1年1カ月ぶりの高値を更新した。個別銘柄ではビンホームズ（10.7%高）、ビングループ（4.5%高）、ペトロベトナム・ガス（2.0%高）などの上昇が指数を押し上げた。今週は緩和的な米金融政策の継続期待や世界的な景況感の改善がベトナムを含む新興国市場の支援となりそうだ。

▼指数チャート

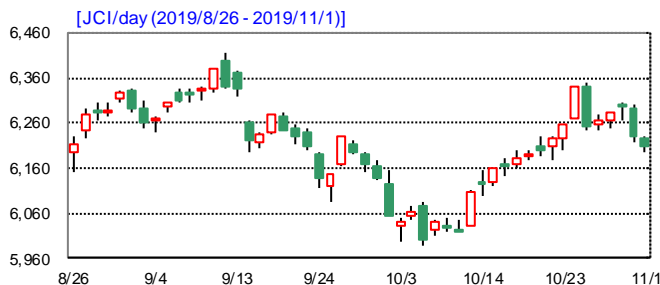


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%安、今週は 7-9 月期の GDP が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 0.7%安と 4 週ぶりに反落。10 月月間では 1.0%高。先週は後半の下落が痛手だった。週初の 28 日は前週末に下落した反動で買い優勢の展開。その後も 30 日までじりじりと上値を広げたが、31 日は 7-9 月期の売上高が予想から下振れたテレコムカシ・インドネシアと、政府によるガス料金の値上げ阻止が報じられた国営ペルサハーン・ガス・ネガラが下げを主導し、指数は前日比 1.1%安と 4 日ぶりに反落した。1 日も通信株が売られ、続落して引けている。今週は 5 日発表の 7-9 月期の GDP に対する市場の反応が注目されるほか、6 日には 9 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

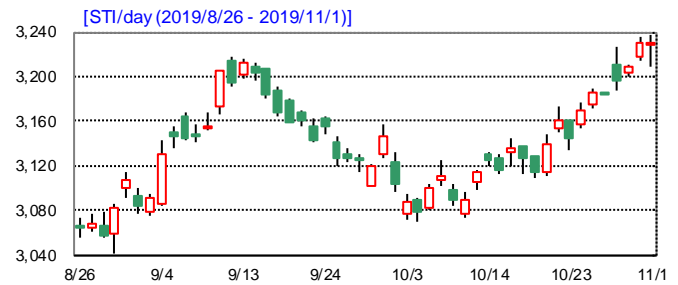


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.4%高、今週は 10 月の製造業 PMI に注目

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.4%高と 4 週続伸。10 月月間では 3.5%高。先週は国内の経済イベントが少ない中、じりじりと上値を広げ堅調に推移した。連休明けの 29 日は米 FOMC を目前に控え、3 会合連続での利下げに対する期待感から買われて指数は 3 営業日続伸。30 日も金融株が上昇をけん引し、終値で節目の 3200 ポイントに到達すると、31 日には米国の利下げ決定が好感され、約 3 カ月ぶりの高値を更新した。今週は 4 日発表の 10 月の製造業 PMI に対する市場の反応が焦点。外部要因では、10 月の米雇用統計が好調だった効果で前週末の NY ダウが反発したことは支援材料になりそうだ。

▼指数チャート

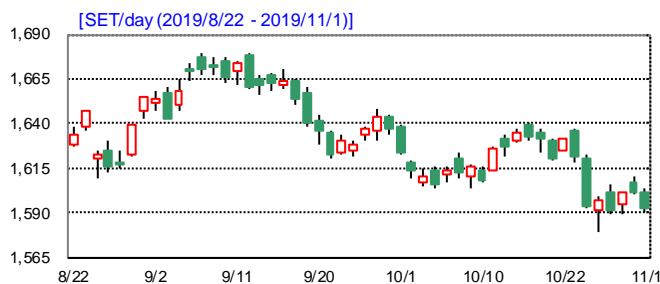


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.05%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.05%安と横ばい。10 月月間では 2.2%安。先週は週末の下落が響いた。週初の 28 日は包装資材子会社の上場計画が報じられたコングロマリットのサイアム・セメントが指数上昇をけん引し、3 営業日ぶりに反発。29 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 4.7%減と市場予想から下振れた影響で反落したが、30 日は金融株とエネルギー株が買われて反発し、終値で節目の 1600 ポイントを回復した。ただ、週後半は軟調で、31 日に小幅反落すると、1 日は米中貿易協議の先行き不透明感から売り優勢となり、続落して取引を終えた。今週は 6 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

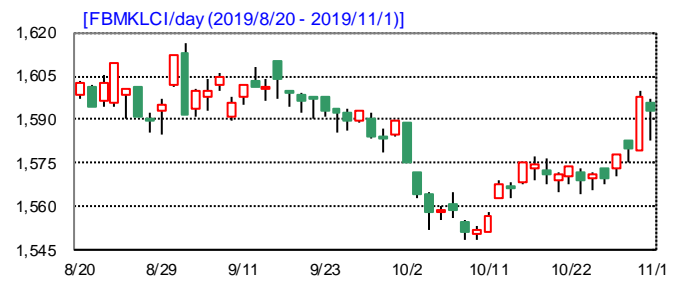


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%高、金融株が指数上昇をけん引

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.5%高と反発。10 月月間では 0.9%高。先週は金融株が指数上昇に貢献した。連休明けの 29 日は、米中貿易協議の進展に対する期待感から買われて反発。30 日に続伸すると、31 日は米 FOMC での利下げ決定を受けて米ドル安リング高が進んだ効果に加え、中央銀行が国内金融機関の先行きについて楽観的な見方を示したことが好感され、指数は前日比 1.1%上昇した。ただ、1 日は反動で売り優勢となり、4 日ぶりに反落して取引を終えている。今週は 4 日発表の 9 月の貿易統計と 5 日に開催される中銀の金融政策決定会合の内容に対する市場の反応が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。